

[学会報告]

新型コロナウイルス感染症と社会デザイン —アフリカで加速する保健分野のDX—

杉下 智彦¹⁾

1) 東京女子医科大学 国際環境・熱帯学講座

要 旨

2019年12月に発生した、人類が経験したことのない未知のウイルス SARS-CoV-2 による新型コロナウイルス感染症は、経済グローバル化を反映し、瞬く間に世界のすべての国と地域に広がった。アフリカにおいて当初の予想を大きく逸脱してパンデミックの影響は限定的であるが抗体保有率は高いことから、感染はすでに拡大しているが、比較的軽症で済んでしまう特異的状况が推測されている。COVID-19 パンデミックは社会の脆弱性を明らかにしてきたが、デジタルトランスフォーメーションはその解決策として注目されている。個人の健康データを捕捉、追跡、分析することで、個人も社会も健康を維持し生命を守る重要な社会のプラットフォームとしての価値が浸透してきている。情報化社会の目指す究極の目的は、人々が無尽蔵な情報から真に正しい情報を得ることで、様々な制約を乗り越えて意思決定が可能になる民主主義の実現である。それは生態系の中で人類の健康を維持していく叡智の仕組みなのかもしれない。